

## 平成 28 年 8 月 台風 10 号の被害における災害支援及び復旧活動の報告

NPO 法人どんころ野外学校

平成 28 年 8 月 30 日。 8 月 17 日の 7 号から引き続いて 4 つ目の上陸となった台風 10 号は、過去に例を見ない記録的な集中豪雨となり、多数の土砂崩れ、空知川の増水、氾濫、堤防決壊、道路や JR 線路の冠水や崩壊、流失、国道の橋崩壊、住宅浸水、大規模停電、断水、孤立、など南富良野町に甚大な被害をもたらしました。

我々は、突然“被災地”となったこの町で、住民として、NPO 職員として出来る限りのことを模索しながら行ってきました。

### 1、災害ボランティアセンター立ち上げと運営



災害からの復旧が長期化することが予想され、町民有志と南富良野町社会福祉協議会と協働し 1 日でも早く日常の生活に戻れるようにと「南富良野町災害ボランティアセンター」を設置し、運営スタッフを 3 名派遣。落合地区のサテライトセンターも担当し、普段より介護予防サービスやスポーツクラブを運営していることから、地域とのつながりも深く、より密着した形での支援活動を展開。10 月半ば以降も、週末、祝日のみではあるが継続した活動をおこなっている。また、指定管理施設の町民体育館をボラセンとして、同スポーツ研修センターを、ボラセンに派遣された社協の職員の宿泊所としての利用に協力。

- ・ボランティアとニーズの調整、ボランティアの誘導、作業説明、ヒヤリング、健康調査、保健・看護活動、作業物品管理、支援物資管理、情報発信、施設管理等

### 2、ボランティアとして

ボラセンの働きかけにより、道内を中心に全国より 4 ヶ月で延べ 6,000 名近いボランティアの方が南富良野町に集まって頂いた。各分野の技術者・専門家から、部活動の学生、小学生までがみなそれぞれの思いを持ってきてくれた。我々も落合地区を中心に、泥だらけになりながらともに復旧にあたった。



- ・湖川の漂流物除去、浸水住宅の泥出し、片づけ、引越、炊出、復興イベント手伝い等

### 3、地域支援

#### 【介護予防 生きがいデイサービス 再開】（南富良野社会福祉協議会委託事業）

会場であった総合福祉センターみなくろが浸水し、事業を休止していたが、9月末に落合地区でミニデイサービスを実施。その後、町民体育館に会場を移し再開。待ちわびていた高齢者の方々が集まることができた。

#### 【どんぐり森のようちえん再開】 9月19日 中富良野

年間通じて野山森川で親子で遊ぶ事業をいち早く再開。被災地に暮らす日常から離れて、子どもと自然の中でゆっくり向き合う時間を提供。



#### 【こどもたちのあそび場づくり】

##### ・「キンダーリース号がやってきた！」 9月20, 21日

子育て支援ボランティアサークル WISH に協力して、「ハンズオントイ キンダーリース」（小樽）におもちゃを満載したバスを依頼。子育て支援センター、介護予防デイサービス、保育所、放課後子ども教室などをまわり、自由に遊ぶおもちゃ空間を実現。延べ200名以上が、楽しい時間を過ごすことができた。（後援：教育委員会 町民自主企画支援事業）



##### ・「小学校体育館開放」 9、10月（協力：南富良野小学校、教育委員会）

落合子ども会が旧落合小体育館を、当校のスポーツクラブゆっくが、南富良野小体育館を、それぞれ学校開放事業の枠を活用して、週末に一般開放し、子どもたちが体をのびのびと動かして遊べる環境を整えた。

##### ・「リンクスこどものひろば シャボン玉とおぼけかぼちゃ」

落合地区の親子対象に、ハロウィンを楽しむイベントを実施。被災した家庭、そうでない家庭もそれぞれが家に閉じこもりがちになってしまうなかで、親、子どもたちが一緒に楽しく遊べるイベントとして企画。（協力：落合連合町内会福祉部）



総合型地域スポーツクラブ みなみふらの SHC クラブ ゆっく

キッズ・クライミングスクール・放課後支援事業えかっちクラブ 再開



災害後、すべての事業を休止していたゆっくだが、子どもたちが関わる教室に関しては、

落合トマム間の道道開通を機に再開し、仲間とスポーツを楽しむ機会を提供。

#### 4、どんころ復旧作業①【落合倉庫の倒壊、管理住宅の浸水】

空知川北落合橋は、無数の流木が突き刺さり、水位が橋を超え氾濫。川沿いの家屋とどんころの倉庫は付近に駐車していた車両や倒木、濁流に押し倒され、倒壊。ボランティアと重機の協力で片づけることができた。また、スタッフが住んでいた管理住宅が床上浸水となり、泥出し、片付け、引越しを行った。



#### 5、どんころ復旧作業②【敷地内町道、外五右衛門風呂、キャンプ場、シケレペナイ沢】



どんころの敷地を流れるシケレペナイ沢と水源の沢が氾濫。奥へと続く町道は一部崩壊、道路全面に沢水が流入しえぐれる。急きょ町が砂利を手配、スタッフが重機で応急的に修復後、10月末に工事が入り完全開通。自然探索や子どもたちの自然体験の場となっていたシケレペ沿いの森は、水が引くと無数の倒木と石の河原となり、土砂の混ざった沢と泥の積もったキャンプ場が残された。何度もボランティアの手を借りながら泥を運び、倒木を一本ずつ切り、現在も整備を続けている。沢のにごり、生物の復活には時間がかかる模様。枝沢も崩落があり、自然探索のコースを再検討中。

#### 6、どんころ復旧作業③【水源地崩壊】



どんころの水源地は、沢の上流 700m と 1 km に浸透柵を 2 つ設置し、埋設した水道管を通し、丸太小屋まで水を引いていた。しかし氾濫と崩落により上部の浸透柵が完全に土砂に埋まり、途中の水道管も土砂崩れにより破断し、断水となってしまった。しかし奇

跡的に最上流部の水道管から不安定ながらも水が流れ、また下流の浸透枮から丸太小屋までは本管がつながっていたため、破断箇所を修復し仮水道をつなげながら、貯水タンクシステムに切り替える工事、凍結防止工事を3か月にわたって行った。道路が崩落していたため車両が使えず、ボランティアを依頼して、水道管などの資材、2tの大型貯水タンクの荷揚げをすることができた。このシステムで厳冬期を越えることを祈る。

#### 7、どんころ復旧作業④ 【アウトドアプログラムのフィールド復旧】



9月末まで営業を全面休止していたが、交通網の復旧に合わせ、ラフティング、カヌーを再開、自然探索は場所を変えて予約分を実施した。現在冬期においては十分な積雪と倒木処理のおかげで、1day 犬ぞり以外のすべてのツアーを実施できている。

【町内林道】 犬ぞりに利用していた林道が、沢の氾濫と倒木により、使用不可能となり、今年度はどんころの敷地内で半日コースのみを実施。町内の森林被害については、すべてをまだ把握できていないほど甚大で、今後の復旧については、まだ見通しがついていない。自然探索やMTB、犬ぞりコース変更を検討中。

【空知川】 倒木処理、スタート、ゴールポイントの整備をラフティングカンパニーが協力して復旧。氾濫して川岸がえぐられてしまった落合においては、土砂の堆積による河床の上昇、流れの変化などがみられているが、ラフティングには大きな支障はない。北落合橋、空知川スポーツリンクス前の流倒木も撤去されたが、川岸の残置物やカヌースラローム用のワイヤー撤去などの作業が残っている。

【かなやま湖】 10月まで湖水の濁りは取れず、岸には倒木や漂流物が多く打ち上げられていた。ボランティアセンターと清掃なども行い、ツアーを再開できるようになった。ワカサギも復活していると聞く。

〈最後に〉

今は真っ白な雪がすべてを包んでいます。子どもたちの元気な声も森に帰ってきました。この4か月の災害支援、復旧活動は、赤い羽根共同募金会の災害ボランティア活動支援資金、北海道NPOファンドからの洪水被害支援基金の助成等により行うことが出来ました。また、企業や団体、個人の方々からのご寄付、救援物資、そして何よりたくさんの方の応援の言葉に助けられました。皆様のご支援とご厚情に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

平成28年12月